

事務事業評価表

1. 基本事項

作成日 令和05年06月13日(火)

事務事業		消防団施設維持管理事業		担当課	消防総務課	担当係	施設係	管理番号	50312	
総合計画	大項目	4	安心とやすらぎを感じられるまち		事業区分	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務				
	中項目	1	備えができて安全・安心なまちづくり		根拠法令 個別計画等	・ 深谷市消防団条例				
	小項目	2	消防・救急体制の充実							
	主要プロジェクト									
事業概要		各地域住民の安全・安心を守るよう、消防団活動拠点としての中心施設である消防団車庫を維持管理することによって、災害発生時に各地域の即戦力となる消防団体制を維持するものである。								
目的 ※何のために		各地域住民の安全・安心を守るため。								
対象 ※誰・何を対象に		深谷市消防団第1～25分団の分団車庫（深谷南支団、深谷北支団、岡部支団、川本支団、花園支団）								
手段 ※どのように		消防団施設の維持管理を行う。								
成果 ※何を求めるか		災害発生時に各地域の即戦力となる消防団体制を維持する。								
執行体制		<input checked="" type="checkbox"/> 職員 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> 市民ボランティア <input type="checkbox"/> NPO等 <input type="checkbox"/> その他（ ）								
事務事業を構成する 予算事業		区分	款		項		目		細事業名	前年度決算額（円）
		一般会計	9	消防費	1	消防費	3	消防施設費	消防団施設維持管理事業	2,526,177
本事業の 主な業務		・ 消防団施設の維持管理							・	
		・ 施設の水道光熱費							・	
		・ 浄化槽保守点検、清掃業務、法定検査							・	
		・ 車庫等補修修繕							・	
		・							・	
		・							・	

2. 事業費（投入コスト）

単位：円

区分		令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	
年度別計画								
事業費	予算（現額）	2, 837, 000	3, 208, 000	3, 129, 000	3, 120, 000			
	決算額	2, 513, 728	2, 526, 177	0	0			
	財源内訳	国支出金	0	0	0	0		
		県支出金	0	0	0	0		
		地方債	0	0	0	0		
		他特定財源	0	0	0	0		
		一般財源	2, 513, 728	2, 526, 177	3, 129, 000	3, 120, 000		
人件費	従事職員数（人）	0. 65	0. 70	0. 70	0. 70			
	人件費相当試算※	5, 045, 245	5, 508, 690	6, 075, 982	6, 075, 982			
総事業費試算		7, 558, 973	8, 034, 867	9, 204, 982	9, 195, 982			

※ 人件費相当額試算は、従事職員数に平均人件費を用いて試算したものです。

3. 評価指標

区分	指標名		目標値	単位	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度	令和 9年度
	目標値の算定根拠/実績値の出所		実績値							
	実績値の算出式									
活動指標 1	団施設修繕件数	目標値	件							
		実績値		7.00						
	目標値の算定根拠/実績値の出所		修繕件数は、意図的に定めることができないため、目標値を定めることはできない。 / 当該年度実績							
	実績値の算出式									
成果指標 1	瑕疵による消防団車庫の機能停止件数	目標値	件	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
		実績値		0.00						
	目標値の算定根拠/実績値の出所		瑕疵による消防団車庫の機能を停止させないことが適正なため、目標値を0とする。 / 災害時の実績							
	実績値の算出式									
		目標値								
		実績値								
	目標値の算定根拠/実績値の出所									
	実績値の算出式									
		目標値								
		実績値								
	目標値の算定根拠/実績値の出所									
	実績値の算出式									
		目標値								
		実績値								
	目標値の算定根拠/実績値の出所									
	実績値の算出式									
		目標値								
		実績値								
	目標値の算定根拠/実績値の出所									
	実績値の算出式									

4. 観点別評価

観点別評価は、指標達成の有無の他、その達成率も勘案して総合的に評価します。
目標値の設定がないものについても、進捗状況等を踏まえA～Cの三段階にて評価します。
事業達成度評価は、意図した活動により事業目的に合う成果がでているかを評価します。
(評価基準) (A:達成している B:おおむね達成している C:達成していない)

(1) 事業達成度評価

区分	評価の観点	評価	評価理由・指標数値の推移
活動	・活動実績は、見込みに沿い、かつ投入資源に見合っているか。	A	災害発生時に、各地域の即戦力となる消防団体制を維持できるよう、消防団車庫の定期的な目視点検を実施し、施設維持に必要な修繕を実施することができた。
成果	・意図した成果が上がっているか。 ・指標未達成の場合は、その原因を分析できているか。	A	定期的な目視点検と、施設維持に必要な修繕を実施したことで、瑕疵による消防団車庫の機能停止を発生することなく常時稼働することができた。
			評価者 課長補佐兼施設係長 小川 知之

(2) 事業効率性評価

事業効率性評価は、執行体制や手段など効率的に事務事業を執行しているかを評価します。
(評価基準) (A:効率的である B:高める余地あり C:効率的でない)

区分	評価の観点	評価	評価理由
効率性	・ICTの活用や業務改善が充分か。 ※検証必須 ・コスト面など効率的に執行できているか。 ・民間委託や他事業との統合・連携が可能か。	B	消防団車庫の施設維持に必要な保守点検、修繕等の執行体制や手法等については効率的に実施できている。
			評価者 課長補佐兼施設係長 小川 知之

5. 前年度改善改革プラン達成状況

令和3年度の評価を受けて 設定した改善・改革案	各地域の災害活動拠点となる消防団車庫の機能が維持できるように、定期的な点検を行い不具合が発生した場合には必要に応じて修繕を行う。また、旧耐震基準により建築された消防団車庫（6施設）や老朽化が著しい消防団車庫については、事業規模等の検討を継続的に行う。
達成状況及び その効果	消防団の活動拠点としての機能を維持するため、定期的な目視点検を実施し、必要な修繕を行った。旧耐震基準で建築された消防団車庫（6施設）を含めた深谷市消防団の現況調査を作成した。

6. 所属長評価（今後の方向性）

事務事業	消防団施設維持管理事業	担当課	消防総務課	担当係	施設係	管理番号	50312
<div><div><div><input type="checkbox"/> ①拡充, 重点化(コスト投入)</div><div><input checked="" type="checkbox"/> ②現状のまま継続</div><div><input type="checkbox"/> ③見直して継続</div><div><input type="checkbox"/> ④目的達成による終了</div><div><input type="checkbox"/> ⑤廃止を検討</div></div><div><div><input type="checkbox"/> 委託化等の検討</div><div><input type="checkbox"/> 成果向上のための改善</div><div><input type="checkbox"/> 効率化のための改善</div><div><input type="checkbox"/> 事業規模の縮小</div><div><input type="checkbox"/> 他の事務事業と統合</div></div></div>		評価の内容説明					
上記を実施するための具体的な取組内容は？		定期的な目視点検と、施設維持に必要な修繕を実施したことで、瑕疵による消防団車庫の機能停止を発生することなく常時稼働することができた。また、旧耐震基準により建築された消防団車庫（6施設）を含めた深谷市消防団の現況調査を継続的に行わなければならない。					
		評価者	次長兼消防総務課長 齊藤 新一				

7. 改善改革プラン・今後の課題

令和5年度に実施する 改善・改革案 （事業目的・各指標の達成に必要な改善、業務の効率化を図るための改善）	地域に密着した消防団の活動拠点としての機能を維持するため、定期的な目視点検を実施し、必要な修繕を行う。旧耐震基準で建築された6つの消防団車庫をはじめ、経年劣化により老朽化した消防団車庫について、消防団と協議を始める必要がある。
令和6年度以降に取り組む 改善・改革案・今後の課題 （事業目的・各指標の達成に必要な改善、業務の効率化を図るための改善）	定期的な目視点検を実施し、必要な修繕を行い、消防団車庫の機能停止を発生することなく常時稼働させる。また、老朽化の著しい消防団車庫については、建物規模など事業規模の検討を継続して行っていく。

8. 評価指標グラフ

